



2008～09 年度
国際ロータリー会長

李 東 建

Weekly Report Niigata



2008～09 年度
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 5月第 3 例会 (2009.5.26) No.2801

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

国立の大学に付置されたいわゆる「研究所」は81箇所あります。殆どが理工系や医学生物系なのですが、人文科学系の研究所も13あります。人文科学系の研究所の中で最も歴史が古くユニークなのは京都大学人文科学研究所ではないでしょうか。戦後の思想界をリードした錚錚たる日本の文化人を輩出しています。桑原武夫、貝塚茂樹、梅棹忠夫、会田雄二、梅原 猛、多田道太郎、鶴見俊輔各氏などすべてそうです。登山でも有名ですが、サルやチンパンジーなどの動物社会学から始まり文化人類学、比較文明論などを展開した今西錦司氏もそうです。

会田雄二氏は、敗戦後ビルマで武装解除され、イギリス軍の捕虜となり強制労働に従事しました。そのときの収容所での体験を中公新書版 [アーロン収容所](副題：西欧ヒューマニズムの限界)という本に書いています。2年足らずの捕虜生活を通じて、イギリス軍そしてイギリスに対して燃えるような反感と憎悪を抱いて日本に帰ってきたと記しています。

アーロン収容所で受けたさまざまな屈辱的な仕打ちを具体的に書いています。イギリス軍は、なるほど殴ったり蹴ったりは殆どしない、しかし一見合理的な処理の奥底にこの上なく執拗で極度の軽蔑と復讐がこめられていたと。「ヨーロッパ人がヒューマニストであるというな

ら、これはどういう事なのか?」……。結論として、「日本人を含めインド人やアジア人を人間としては見ていない」という事に尽きると述べています。その結論にいたるところで、興味深い文化人類学的な考察をいろいろ加えています。

「西欧ヒューマニズム」はヨーロッパ人同士では通用するかもしれないが、人間として認知しないアジア人に対しては通用させない、つまり非常に一面的で限界を有するヒューマニズムに過ぎないとも言えるようです。

国際交流・国際理解・国際親善とはいうものの、表面的ではなく本質的なところで相互理解することは並大抵なことでは出来ません。そして相手を理解するためには、まず自分達の歴史文化、習慣、価値観に基づいた確固たる自己の判断基準を持つ必要があると考えられます。

ロータリーでは米山奨学生、一年交換学生、ロータリー財団国際親善奨学生などのお世話をしています。単に留学生の受け入れ、派遣ということだけでなく、留学期間中ロータリアンが様々な形で留学生と交わるというユニークな事業です。国際間の相互理解がどんなに困難であっても、或いはどんなに時間がかかるにしても、私共としては根気良く地道にこれらの活動をしていくしか道はないのではないのでしょうか。

(3) 幹事報告(石井 和弘次期幹事)

本日の現・次クラブ協議会は、午後6時より 割烹 蛸
で開催されます。

(4) 卓話 「新潟国体県選手団の躍進に向けて」

(財)新潟県体育協会 会長 馬場 潤一郎 氏

6月2日の例会予定

「ロータリ情報のお話」

ロータリー情報委員長 小山 楯夫 君

親睦活動月間三話題

親睦副委員長 小林 悟

☆ 晩年のポール・ハリスが来日した時、
「何故ロータリークラブを始めたのですか？」という質問に、彼はこう答えたそうです。「淋しかったから……」

☆「それでこそロータリー」は親睦を深めるための実践訓です。

どこで会っても、やあと言おうよ。
(たとえ、そこが〇〇〇の廊下ですれ違っても)

見つけた時はオイと呼ぼうよ
(たとえワケアリの女性と深刻そうな話をしている時でも……)

遠い時には手を振りあおうよ
(たとえ護送車の窓越しであろうと……)
それでこそ ローローロータリー

☆親友の定義のひとつは
「何を言っても誤解されない仲」だということです。

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>